秋田市ホームページで市長の動向や記者会見の内容などをお伝えしています。
http://www.city.akita.akita.jp/

市長●ほっぺ!!コラム

市長●佐竹敬久

ふるさと市民賞受賞の小松由佳さんと

秋田・お酒事情

秋田は昔から良質な米と清浄な水を活用した日本酒、すなわち清酒製造が盛んな土地柄であり、またよくお酒を飲む県民でもあります。

清酒の生産量は全国四位。一人あたりの消費量では、清酒部門において新潟に次ぐ二位となっており、酒類全体でも全国のトップクラスに位置しています。ちなみに秋田県人は年間一人あたり酒類全体で約百リットルをおなかに入れています。

しかし、生活様式や食生活の変化、多種多様なお酒が手に入りやすくなったことなどにより、清酒をめぐる環境は厳しくなっています。このような中で清酒製造業のみなさんも努力を続け、生産量は減少傾向にあるものの、県産酒のおいしさは格段と向上してきています。

かくいう私は、酒類万般なんでもよく飲む酒飲みの類に入るでしょう。

酒飲みとしては、季節やその時々の酒席の状況によって、飲みたい酒が異なるのも事実です。暑い盛りの生ビールは格別ですし、たまにの贅沢のステーキにはワイン、あるいは居酒屋でのモツ煮込みに焼酎など、その時に飲みたいと思う酒を楽しむのが健康に飲むコツ、などと独りよがりの説を唱えています。

日本酒でみんな和やか(清酒高清水の見学会)

そうは言っても秋田県人のDNA故か、結局は日本酒。熱燗よし、冷用酒よし、吟醸酒よし、年間を通じて一番多く腹に納まるのは清酒で、秋田県人の体に合っている気がします。

ところで、最近パーティーなどで出されるお酒について疑問を感ずることがあります。酒造県秋田ということで、乾杯は最初からわずかの清酒が注がれている杯で行われることが多いのですが、その後が続きません。

酒は好き好き、何を飲むべきというつもりはありません。しかし、最初の一口の県産酒による乾杯で秋田県人の義理を果たす、という免罪符になってしまっている気がします。

清酒好きの人はたくさんいます。ところが、待てど暮らせどテーブルには清酒が現れず、催促して初めて運ばれてくることが多いのです。

お願いします。乾杯だけで終わらせず、おいしい県産酒を飲める状況をつくってください。

最初から県産酒のボトルでもトックリでもテーブルに置いておき、それを杯に注いでから乾杯ということでもいいでしょう。乾杯の仕方もいろいろですが、最初から杯に注がれているのは清酒の場合だけで、議論のあるところでもあります。

私がお酒のことに触れると何かと物議を醸し出すことを覚悟で書いた次第です。

K2登頂の小松由佳さんに「秋田ふるさと市民賞」

市民賞のトロフィーは、美術工芸短大教授の小牟禮尊人さんが「K２」をイメージして制作

K２山頂で。「突然晴れたので、山が私を受け入れてくれたと感じ、涙が出ました」

11月8日、秋田市出身のクライマー・小松由佳さんに、佐竹市長から「秋田ふるさと市民賞」が贈られました。ふるさと市民賞は、市民の希望、誇りとなり、勇気を与えてくれた活躍をたたえようと、平成11年に市制110周年を記念して創設され、小松さんが初の受賞者となりました。

小松さんは昨年8月、世界第二の高峰、パキスタン北部にある8千611メートルの「K２」登頂に日本人女性として初めて成功。その快挙が市民に大きな感動を与えました。

表彰式は小松さんの母校である泉中学校で行われ、母校の生徒たち700人を前に講演。登る人の4人に1人が帰れないというK２での体験から、「冷蔵庫くらいの大きさの岩が次々と落ちてきたときは、当たらないよう祈ることしかできず、緊張感と恐怖に自分が生きていることを実感させられた。ふだん当たり前すぎて感じませんが、生きていることは、それだけで奇跡のようなことだと思ってほしい」と、生きることのすばらしさを訴えました。

最後に「情熱が可能性を生み出します。自分を信じて頑張ってください」と、後輩たちを激励し、40分間の講演を終えました。

先輩を見習って頑張るぞ！

高橋凌太さん（泉中２年）

僕はあきらめが早いところがあるので、小松先輩のように自分の可能性を信じてもっと努力したいです。まずは野球部のレギュラーをめざして頑張ります！

市政情報を声でお届け「声の広報」が発行千号！

11月17日、市から花時計のみなさんに感謝状を授与

広報あきたを毎回カセットテープに吹き込み、視覚障害者のかたへお届けしている「声の広報あきた」が、昭和51年3月の第1号発行から、11月16日号で通算千号を迎えました。

声の広報は、朗読奉仕グループの協力で続けられており、現在は「声の広報制作グループ花時計」のみなさんが毎月2回、心を込めて読んでくれています。

声の広報あきたは約90人の視覚障害者のみなさんに届けられ、市民と市政を優しい声でつなぐ大事な架け橋となっています。

秋田市水道100周年 おいしい水、つくり続けます

400人以上の参加者が水道100周年を祝福

10月27日、アルヴェのきらめき広場で「秋田市水道100周年記念式典」を開催しました。秋田市の水道は明治40年10月1日に、東北で初めて給水を開始。全国的にみても歴史が古く、藤倉水源地は国の「近代化遺産」に指定されています。

もし水道が止まってしまったら…。そんな心配がないよう、秋田市の水道は、これからも安全でおいしい水をつくり続けます。